

令和7年度 島根県 英語教育改善プラン

生成AI等ICTを効果的に活用し、目標と指導と評価の一体化を図る

- 「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を設定している学校の割合。(R5: 48.0% ⇒ R7: 100%)
 ○児童の英語による言語活動の割合。(R5: 91.0% ⇒ R7: 100%)
 ○「児童が1人1台端末を活用した授業」を実施した学校の割合。(R5: 89.3% ⇒ R7: 100%)

目標

- ☐ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☐ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
- (パフォーマンステスト含む) (専科教員含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①CAN-DOリスト形式による学習到達目標を全ての小学校で設定している。
 (CAN-DOリストを設定している学校の割合 R5: 48.0% ⇒ R6: 100%)
 ②約9割の学校が「話すこと」を評価するためのパフォーマンステストを実施している。(パフォーマンステストを実施している学校の割合 R4: 90.8% ⇒ R5: 92.5%)

未だ改善が必要な点

- ①言語活動充実のためのICTや学習者用デジタル教科書活用が十分でない。(1人1台端末等活用の割合 R4: 81.7% ⇒ R5: 89.3%) (デジタル教科書活用の割合 R5: 全国82.1% 島根59.7%)
 ②全国学力・学習状況調査児童・生徒質問紙の「英語の勉強は好きですか」の質問に対する肯定的な回答の割合に課題が見られる。(R5: 65.6% ⇒ R6: 64.7%)

2. 要因分析

- ①県が例示するCAN-DOリスト等を基に、目標と指導と評価の一体化について理解が深まったことで、県内全小学校がCAN-DOリストの見直し・作成・設定を行うことができた。

- ②多くの学校で、「話すこと」について、指導と評価の一体化が図られている。

- ①言語活動充実のためのICTや学習者用デジタル教科書活用について、具体的な活用理解が進んでいないため、地域・学校による取組の差が見られる。

- ②適切な言語活動の設定等、学習意欲を高める授業が展開されていないことが要因と考えられる。また、このことが中・高の学習意欲等の課題に影響していることについて懸念がある。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②国の「AIの活用による英語教育強化事業」等による、小中高を通じた英語力、学習意欲の向上及び個別指導の時間の確保等に係る実践研究の実施

AIを活用した個別学習支援、家庭学習、授業における主体的な学びのための効果的な活用等について、モデル校において実践研究を進め、研究成果を全県に普及する。

- ①②小・中・高等学校の連続性と系統性をもった英語指導力向上研修の実施

小・中・高等学校の連続性と系統性をもった学習指導のあり方について指定地域において、小・中・高等学校1校ずつを研究校とし、相互の授業公開等を通じて研究を推進するとともに、研究成果を全県に普及する。

- ①②小学校外国語教育講座の実施

目標を明確にもって授業づくりや単元づくりをすることについて、実践報告や講義・演習を通して理解を深め、教科指導力の向上を図る。

- ①②小学校英語専科教員等連絡協議会の実施

各小学校における外国語の授業に係る課題と成果を共有し、英語専科教員等同士でAI活用等を通じた授業改善に係る情報交換協議等を行うオンライン協議会を年間を通じて実施する。

※小学校英語採用の実施

小学校教諭普通免許状所有者に加え、ア) 中学校又は高等学校英語免許状の保有者、イ) 2年以上のALT経験者、ウ) 2年以上海外で英語を使用した勤務経験または留学経験のある者、エ) CEFR B2以上保有者、オ) その他高い指導力が認められる者のいずれかの要件を満たす者を採用時の要件としている。

(参考: しまねの教育情報Web EIOS 「授業づくり 小学校 外国語活動・外国語科」)



令和7年度 島根県 英語教育改善プラン

生成AI等ICTを効果的に活用し、目標と指導と評価の一体化を図る

- 生徒の英語による言語活動の割合。(R5: 49.4%⇒R7: 80.0%)
 ○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合(R6: 40.5%⇒R7: 60.0%)
 ○学習者用デジタル教科書の活用(1%以上25%未満の授業で実施した+実施していない)の割合。(R6: 27.1%⇒R7: 0%)

目標

☐ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☐ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
 (パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①CAN-DOリストの設定、公表、達成状況の把握の割合の増加。
 設定 (R4:79.3%⇒R5:100%)
 公表 (R4:33.7%⇒R5:55.4%)
 把握 (R4:63.0%⇒R5:75.0%)
- ②英語の授業以外の授業や学校行事へのALTの参画の割合の増加。
 (R4:72.8%⇒R5:80.4%)

未だ改善が必要な点

- ①授業内容の理解度の低さ。
 「英語の授業はよく分かる」
 (R5: 58.6% 全国比-5.3)
- ②授業における、生徒の英語による言語活動の割合の減少。
 (R4:59.0%⇒R5:49.4%)
- ③教員の授業における英語使用の割合の減少。
 (R4:54.9%⇒R5:46.1%)
- ④学習者用デジタル教科書の活用が不十分。R6:

75%以上の授業で実施	50%以上75%未満の授業で実施	25%以上50%未満の授業で実施	1%以上25%未満の授業で実施	実施していない
26.0%	8.6%	38.0%	22.8%	4.3%

2. 要因分析

- ①CAN-DOリストの作成・提出をすべての学校に求めたところ、設定は100%となった。
- ②教員等が授業や行事にALTを積極的に誘い活用を図る動きに加え、ALT自身の参画意欲の高まりや、配置数・派遣方法の安定・充実が要因と考えられる。
- ①授業が知識習得型に偏り、英語使用場が不足していること、生徒の主体的活動が少ないことが要因と考えられる。
- ②教員中心の授業構成や活動場面の不足、生徒同士の英語使用機会が少ないことが要因と考えられる。
- ③教員の英語使用不安、授業進行優先で日本語使用が定着していること、指導計画不足が要因と考えられる。
- ④教員のICT活用経験不足、効果的な使用方法の共有不足、機器環境の課題が要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②国の「AIの活用による英語教育強化事業」等による、小中高を通じた英語力、学習意欲の向上及び個別指導の時間の確保等に係る実践研究の実施

AIを活用した個別学習支援、家庭学習、授業における主体的な学びのための効果的な活用等について、モデル校において実践研究を進め、研究成果を全県に普及する。

- ①②③小・中・高等学校の連続性と系統性をもった英語指導力向上研修の実施

小・中・高等学校の連続性と系統性をもった学習指導のあり方について指定地域において、小・中・高等学校1校ずつを研究校とし、相互の授業公開等を通じて研究を推進するとともに、研究成果を全県に普及する。

- ①②中・高等学校外国語教育講座の実施

「目標と指導と評価の一体化」に基く授業づくりについて理解を深め、生徒の主体的な学びを引き出す魅力的な授業デザインを創造する。

- ①④授業改善に係る説明動画の配付・活用

全国学力調査や県学力調査等で判明した課題を改善するために、授業づくりについて提案する動画を作成し、配付する。

- ③④県・市町村教育長会議、学力育成会議

英語教育実施状況調査結果に基づいた英語教育の推進について協議を行う。

(参考: しまねの教育情報Web EIOS「令和7年度各教科等の指導の重点(外国語)」)



令和 7 年度 島根県 英語教育改善プラン

生成AI等ICTを効果的に活用し、目標と指導と評価の一体化を図る

- 生徒の英語による言語活動の割合 (R5 : 48.3%⇒R6 : 45.6% ⇒ R7 : 75.0%)
- CEFR A2レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R5 : 49.5%⇒ R6 : 45.1% ⇒ R7 : 60.0%)
- 英語担当教師の英語使用状況発話の50%以上 (R5 : 31.3% ⇒ R6 : 28.8%⇒R7 : 75.0%)

目標

- ☐ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☐ 教師の英語力・指導力 ☒ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
- (パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①ICTの機器の活用状況
多くの学校で活用が進んでいる
・発表や話すこと
(R5:88.6%⇒R6:94.3%)
・発話や発音などを録音・録画
(R5:65.7%⇒R6:77.1%)
・キーボード入力を書くこと
(R5:88.6%⇒R6:94.3%)
- ①生徒の英語力について
・CEFR A2相当以上取得または有する生徒の割合
(R5:49.5%⇒R6:45.1%)
・CEFR B1相当以上取得または有する生徒の割合
(R5:15.5%⇒R6:14.7%)
※全国(R6:21.2%)との差拡大
- ②言語活動について
・生徒の言語活動時間50%以上の割合
(R5:48.3%⇒R6:45.6%)
・英語担当教師の英語使用50%以上の割合
(R5:31.3%⇒R6:28.8%)

2. 要因分析

- ①1人1台端末完成年度でもあり、観点別評価の完成年度でもあったため、4技能を向上させるための指導と評価の一体化が定着してきた結果、ICTの活用状況も改善したと考えられる。
- ①生徒の英語力については、調査年度によって割合の高低がある。CEFR:A2相当以上の英語力を有する生徒の割合が増加しないのは、近年の高校入試や共通テストの結果を見ると、生徒の学力の二極化が進んでいることも要因の一つと考えられる。
- ②生徒の言語活動の時間及び英語担当教師の英語使用の割合が50%を下回っているのは、学年が上がるにつれ文法や英文構造に関する説明の必要性が高まることや生徒間の学力差への対応が求められることなどが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②国の「AIの活用による英語教育強化事業」等による、小中高を通じた英語力、学習意欲の向上及び個別指導の時間の確保等に係る実践研究の実施
AIを活用した個別学習支援、家庭学習、授業における主体的な学びのための効果的な活用等について、モデル校において実践研究を進め、その研究成果を全県に普及する。
- ①②小・中・高等学校の連続性と系統性をもった英語指導力向上研修の実施
小・中・高等学校の連続性と系統性をもった学習指導のあり方について指定地域において、小・中・高等学校1校ずつを研究校とし、相互の授業公開等を通じて研究を推進するとともに、研究成果を全県に普及する。
- ①②中・高等学校外国語教育講座の実施
「目標と指導と評価の一体化」に基く授業づくりについて理解を深め、生徒の主体的な学びを引き出す魅力的な授業デザインを創造する。
- ①②県内英語科教員で構成される研究会との連携
県内の英語科教員で構成される島根県高等学校英語教育研究会の理事会や研究大会、機関誌への寄稿において、島根県の現状と課題を共有するとともに、改善につながるよう支援や助言、情報提供を行う。
- ①②英語ディベートや国際交流の推進
グローバルに活躍することが期待される層の拡充に向け、島根県高等学校英語ディベート大会のより一層の充実を図る。また、ICTを活用した国際交流等を推進する。
(参考：しまねの教育情報Web EIOS「令和7年度各教科等の指導の重点（外国語）」)

目標達成状況一覧表

令和7年度様式（様式2）

島根県教育委員会

			2023		2024		2025		2026		2027	
校種	指標内容		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)		60	49.5	60	45.1	60		60		65	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)		8	15.5	20	14.7	20		25		30	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)		75	48.3	75	45.6	75		75		80	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)		80	47.3	80	61.9	80		80		85	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	76.1	100		100		100		100	
		公表(%)	100	50	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	75	34.8	75		75		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)		75	79.8	85	79.3	85		90		90	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)		75	31.3	75	28.8	75		75		75	

			2023		2024		2025		2026		2027	
校種	指標内容		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)		60	40.6	60	40.5	60		60		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)		80	49.4	80		80		80		80	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)		90	76.4	90		90		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	70	55.4	70		70		80		80	
		達成状況の把握(%)	70	75	80		80		90		90	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)		60	38.4	60	38.9	60		70		70	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)		80	46.1	80		80		90		90	

			2023		2024		2025		2026		2027	
校種	指標内容		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	70	48	70		100		100		100	
		公表(%)	70	23.5	70		80		80		80	
		達成状況の把握(%)	70	39.3	70		80		90		90	